

さるる

えりもの地域資源の掘りおこしと活用～猿留山道を中心に～

(北海道・えりも町)

えりも町の「猿留山道」は江戸幕府によって開削された北海道（東蝦夷地）の開拓に重要な役割を果たした北海道初の官営道路の一つです。「えりも町郷土資料館 N4 2° の会」は、平成13年に地域住民を中心に会員19名（現在37名）により発足し、「猿留山道」を中心としたえりも町の特異な地域資源を掘り起こし、地域内外のボランティアによる山道の復元や維持管理活動、町内広域の散策路(フットパス)整備を行っています。さらに地域資源を活用した体験学習の実施、海岸緑化への協力など様々な活動により、地域住民にふるさとえりもの原風景を伝えるとともに、観光地としての価値を高め地域活性化に寄与しています。



災害復旧後の河川敷及び堤防を利用した地域活性化事業

(栃木県・那須町)

一級河川余笹川は、清流那珂川の第1次支川であり、「余笹川流域連携ネットワーク」は平成10年の那須災害の復旧に携わった県・町、建設業、測量・コンサルタント業者、地元釣り愛好家グループ・河川愛護会など多種多様な構成メンバーにより、平成15年に設立しています（会員数約150名）。よささふれあい公園を主会場として、毎年川の日記念行事、環境調査、よささウォークのほか、「マスつかみどり」等イベントを実施しています。「川の日記念行事」は遠路住民の参加もあり、約400名参加、「よささウォーク」は他のイベントとタイアップする工夫により、参加者が年々増加し、H22年度は400名を超え、近年大きく発展しています。



野の川の再生「清流よ 永遠なれ」

(東京都・江戸川区)

昭和30年代以降、都市化の進展に伴い、一之江境川に生活排水が流れ込み、環境悪化の一途を辿りましたが、「野の川の再生」をテーマに一之江境川親水公園が平成8年に整備されました。「一之江境川親水公園を愛する会」は、流域の町会・自治会18団体が結束し、平成8年に設立しました（会員数17,067世帯）。夏期早朝清掃（参加者1,000名）、自然観察会（参加者150名）、秋の虫歌声鑑賞会（参加者70名）、秋の一斉美化運動などの活動を通じて、親水公園を訪れる多くの住民の自然空間に関する意識向上及びふるさと愛護心の啓発に大いに貢献しています。



流域学習・流域防災拠点を目指す鶴見川駒岡河川敷

(神奈川県・横浜市)

「鶴見川流域ネットワーク」は、平成3年に鶴見川流域で個々に活動していた13団体が鶴見川とその流域で互いの活動を連携し合うことで鶴見川流域をよくしていこうという思いから設立し、現在44団体が所属しています。鶴見川とその流域の自然の賑わいを再発見し、川を軸に流域規模で安全・安らぎ・自然環境・福祉重視の町づくり・流域文化づくりを目指し流域活動を継続中です。河川敷での月1回の定例活動（清掃、草刈り、水辺体験支援等）や地元地域から河川敷を利用した地域づくりの相談を受けるなど幅広い活動を通じて、流域地域の交流や人的協力関係の強化に繋がるきっかけとなっています。



三条市民と大学の協働による小さな里山づくり

(新潟県・三条市)

ポケットパーク整備実行委員会では、JR高架脇の不整形な残地に地域住民、地域の専門家、大学生が協働して、まちの中に一年にひとつずつ里山の緑だけ移植して小さな里山（ポケットパーク）をつくるという協働のまちづくりを平成19年から始めています。年間を通して、計画、施工、管理までを一貫して行っており、緑を里山に求め、地元の材料を使い、作業は全てボランティアで行っています。参加住民は平成22年度には延べ813人を数え、大きな活動に育っています。季節毎の変化を感じとれる小さな里山は、市の中心と周辺を結ぶ場となり、住民が緑の管理に自然に繋がる場や散歩・通学の人の憩いの場となっています。



三国街道塩沢宿 牧之通り（雪国の歴史と文化のまちづくり）

(新潟県・南魚沼市)

地元住民で構成される牧之通り組合は、平成13年の県道の街路整備を機に、沿線の建築物の外観・意匠の統一、色彩の制限などを定め、雪国の歴史と文化を活かす魅力あるまちづくりを推進しています。平成18年からは地元の女性を中心となり、各家庭のひな人形を公開する「ひな雪見かざり」を毎年開催しています。当初の9軒から平成23年（第6回）には、約60軒までになり、来客数も1,000人から30,000人に増加しています。地元中学生が観光ガイドとして参加するなど、次の世代に新たな企画や活動が引き継がれています。イベント以外でも牧之通りを楽しむ人など来訪者が増え、賑わいと交流活動が再生されています。



中山道「御嶽宿」景観修景プロジェクト

(岐阜県・御嵩町)

江戸と京都を結ぶ「中山道」49番目の宿場町として設置された御嶽宿を地域固有の財産として保存活用をはかっていくため、地域住民を中心に、御嶽宿地域再生構想（平成20年）、御嶽宿地域景観等整備指針（平成21年）を策定し、これらを受けて、「みたけ地域活性化委員会」が主体となって、平成20年より手作りの景観修景をスタートしました。ゴミ集積箱の修景をまず第一歩とし、平成21年には名鉄「御嵩駅」駅舎等の修景、平成22年には地元高校との協働、平成23年にはソーラー発電による修景プロジェクトなど、活動が地域に根付き、幅広い年代層を巻き込みながら、着実に拡がりを見せています。



市民が創る緑の街道 愛岐トンネル群～廃線トンネル再生中～

(愛知県・春日井市)

愛岐トンネル群は昭和41年廃線になり平成18年に市民の手で発見されるまで40年以上山の中に眠り続けていた貴重な産業遺産です。この近代産業遺産を地域の財産として後世に語り継ぐと、「愛岐トンネル群保存再生委員会」は平成19年6月に設立し、平成21年にNPO法人格を取得しました（会員数89名）。

たくましく豊かに再生した自然と赤レンガのトンネルの共生をめざして、廃線の整備を行い、平成20年より一般市民向けの特別公開（春・秋の年2回）を行っており、当初は入場者も少なかったが地元紙に取り上げられ、公開日数29日で延べ4万人（1500人/日）を超える方が参加しています。



蘇った歴史の道 岩国往来

岩国往来は約30キロの街道で、大正時代までは重要な道でしたが近年は人が歩くこともできない状態でした。平成18年度より沿道地域住民が岩国往来を復元し、地域の資源を生かしたまちづくりを目的に「岩国往来まちづくり協議会」を結成、街道を調査、復元しました。岩国往来の整備により発生した間伐材を材料に、駕籠立場や案内板の設置等は全て地元ボランティアの手づくりで行っています。復元した岩国往来を活用し年5回行う岩国往来ウォーキング、中学生が飛脚箱をリレーする飛脚リレー、三極の植樹等を実施するなどのイベントを通じて沿道地域の連携が図られ、地域活性化に寄与しています。

(山口県・岩国市)



「水」と「芸術文化」でまちづくりと人づくり

「うちぬき21プロジェクト」（平成12年6月設立 会員数119名）は、市民が誇れる「水と芸術文化のまちづくり」をテーマに、「西条のうちぬき保全と環境美化」、「芸術文化の創造と環境づくり」、「市民が誇れる水景観づくり」を基本方針に活動しています。様々なイベント活動を実施しており、住民が一体となって、地域資源を活かした魅力向上に努めています。また、活動を通じて築き上げた絆により、地域の魅力向上、環境の維持のために「アクトピア水系」の清掃や「88クリーンウォーク四国」などのボランティア活動への参加や、ワークショップ等へも参加するなど、地域資源を活かしたまちづくりにも積極的に取り組んでいます。

(愛媛県・西条市)



山国川発中津干潟 水でつながる自然と文化と私たち

「NPO法人水辺に遊ぶ会」は、源流から干潟まで自然環境の劣化が少ない状況で現存する中津干潟と山国川水系に着目し、これらの環境や産業、伝統文化を地域の貴重な資源として捉え、水環境の保全と持続可能な利用を目的に発足しました。自然観察会や学校教育の場での環境学習のサポート、体験学習を通じた啓発活動や、水環境保全のための独自の調査研究活動と情報の発信、郷土史の掘り起こしなどを通じて地域のより良い関係づくりに寄与するとともに、「中津干潟」の存在を国内外から評価されるきっかけとなりました。

(大分県・中津市)



堀川運河の歴史と伝統を活かしたまちづくり

堀川運河ふれあい文化交流促進協議会では、昔から伝わるチョロ船、弁甲筏流しなどの歴史的な文化を再現させ、堀川運河や油津港のイベントで体験乗船運航等を行い油津のまちの賑わいを創出しています。また、油津フェスタ、朝市など、多くのイベントを誘導や調整を行うとともに、近隣の商店街等と連携し、堀川運河周辺への観光客や市民の誘導を促進しながら、交流人口の増加を図るとともに、油津港港湾環境整備事業で整備された石積護岸や堀川運河沿いの緑地広場「夢ひろば」や「夢見橋」等の活用を行い、堀川運河を中心に昭和初期に栄えた港町の賑わいを取り戻しています。

(宮崎県・日南市)



ガーデンシティみしまプロジェクト

「ガーデンシティみしま推進会」は、平成8年から事業展開する街中がせせらぎ事業の継続及び発展的活動としてガーデンシティみしまプロジェクトを行うため平成23年8月に結成しました(60団体、約2000人)。手づくり郷土賞受賞後も源兵衛川など水辺の管理・清掃などを毎日実施しています。水辺環境の再生から始まった活動は市全域のまちづくり活動に発展され、ボランティアによる清掃活動や花壇管理、ふるさとガイド(毎年3500人)、更に路地裏文化の再生や街と農業を結ぶ連携と交流づくりとして街中カフェ、里山カフェ等のコミュニティビジネスへの取組も始めています。

(静岡県・三島市)



若狭鯖街道熊川宿

「若狭熊川宿まちづくり特別委員会」は、町並みを活かしたまちづくりを目的に平成7年に設立しました。重要伝統的建造物群保存地区である熊川の歴史や自然を活かしながら、毎年、建物の修理に加え、前川用水の清掃作業、登山道の整備、町文化財を活用した喫茶と宿の運営、鯖街道の交流、ブータンや韓国との国際交流等、多様な事業を展開しています。熊川宿の高齢化率は現在43%ですが、30代から50代の住民が中心となった手作りの観光イベントを行い例年1万人の来訪者があります。住民と同じようにまちづくりに関わっていただける人で組織した「熊川宿ファンクラブ」も発足し、熊川に対する想いの輪が広がっています。

(福井県・若狭町)



酒蔵のあるまち並み

東広島市の酒蔵地区は日本三大銘醸地の一つで、酒蔵群の立ち並ぶ美しい景観が残っています。平成元年の手づくり郷土賞受賞を契機に「酒まつり」が定期化するなど、住民の街づくりの意識が高まり、ボランティアガイドの他、子どもガイド等の育成にも取り組んでいます。この間にまち並みの再整備の機運が高まり、平成14年に「酒蔵地区まちづくり協議会」を設立、整備計画を策定し平成21年には美装化等の整備が完了しました。また酒蔵地区の魅力を高める酒蔵コンサート、酒蔵開放等のイベントを多数開催し、酒まつりは平成2年に3万人だった来場者は約25万人へと着実に成長、地域活性化に大きく寄与しています。

(広島県・東広島市)



豊後高田昭和の町

豊後高田昭和の町は、「昭和の町」をコンセプトに商業と観光を一体化し、平成13年より中心市街地の整備、再生をすすめています。「昭和ブーム」の後押しもあり、地域活性化(交流人口の増加)も進み、既に10年が経過しました。その間、交流人口の増加を一過性のものにならないために、各種イベントや地域住民による観光ガイドなど、地域住民や商店主、商工会議所、まちづくり株式会社(第3セクター)、市等、官民全体が一丸となって地域資源の再確認を中心とした地域活性化に取り組んでいます。このような取組は市全体を巻き込む大きなうねりとして着実な広がりを見せています。

(大分県・豊後高田市)

